

新飛泉

第7号

(株)イメージプラン飛驒
〒506-0808
高山市松本町2118-27
TEL 0577 35-2360
FAX 0577 35-0507
http://www.image-plan.com
taruhida@iilac.ocn.ne.jp

今月の紙面

特集……………二面
「ロールレタリング」
コラム……………一面、三面
個人史伝……………三面

ISO情報交換会が三重県で開催

付知土建株式会社様が講演

2005年7月15日14:00~16:30に、財団法人三重県環境保全事業団 国際規格審査登録センター(以下ISC)主催のISOに関する情報交換会が三重県津市の三重県総合文化センター(多目的ホール)で開催されました。

今回は第八回目の開催であり、ISO9001に関するテーマで行われました。先月号でも「予告編」としてご紹介させていただきましたが、今回の情報交換会では、当社が企業活性化・ISO9001認証取得コンサルティングのお手伝いをさせていただいた「付知土建株式会社」様が「全員参加のISO」というテーマで講演をされました。今月号では、その結果報告を中心にさせていただきます。情報交換会へは、200名程参加してみえました。参加者の業



種別割合は建設業者さんが多いと感じました。又、女性の方も多数参加してみえました。次に内容ですが、会社概要と中津川市の紹介、意識改革・ボトムアップを通じてシステムを構築した経緯(イメージプラン飛驒

の紹介含む) システム構築事例(施工管理プロセス、工事事前検討書、顧客満足度調査・分析表 マネジメントレビュー事例 今後どのように進めて行くか、という流れで講演が行われました。特に 意識改革・ボトムアップを通じてシステムを構築した経緯の中で、「ポストイットを使用し問題点の抽出 問題点に順位付けをする 原因を究明する 解決方法検討 仕組み(システム)の構築」というプロセスを全員が参加し実施された旨の説明がありました。このような取り組みから、「実務に適合したシステム」「分かりやすく単純化したシステム」「プロセス重視の考え方」などが生まれたのではないかと思います。参加者の皆さんには、今回の講演によって「全員参加のISO」の重要性を知っていただき、今後の改善のヒントになれば幸いです。

コラム

日本語の乱れに ついての考察

最近の10代、20代は「やばい」という言葉をよく使います。確かに「やばい」という言葉はどの世代でも使いますが、どうも「やばい」の意味には世代により違いが生まれているようです。辞書で「やばい」という言葉を調べると、「危険や不都合が予測されるさまである。危ない。」とあります。しかし若い世代の「やばい」の意味は、程度の甚だしいことを表す「すごい」とも「の意である」とも「すこい」に近いように思われます。使用例としては、「このラーメンやばくない?やばいくらいおいしいよ。」(このらーめんすこいよね?とてもおいしいよの意)となります。ある程度の世代から理解できないと感じるのではないのでしょうか。実はこのような日本語の変化は昔から起きています。「すこい」という言葉も元々は「ぞつとするほど恐ろしい。気味が悪い。」という意味でした。それが平安時代頃から、今の「やばい」と同じような変化を始めました。例えば「すこくおもしろい」というような使われ方です。(三面に続く)

集 特

ロールレタリングについて

みんなに感謝イコール自分に感謝

平成17年1月24日読売新聞の朝刊の、さわやか福祉財団理事長堀田力氏の記事の中で、少年院に入った子供たちを更生させる手法として「ロール・レタリング」というものを紹介していました。共認機能（ ）を強化する手法として非常に面白いと思ったので、ちょっとその記事を紹介します。

() 共認とは、共に認め合うこと。人類社会は、人々が課題や役割や規範や方針を共認することによって、統合されている。共認機能は、元々は、不全から解脱する為に形成された機能で、相手の不全(期待)と自分の不全(期待)を同一視する共感回路を原点としていて、相手と同化することによって充足(安心感等)を得る機能。正確には、相手の期待に添えて相手の反応を得ること(つまり、期待と応合のやり取り)によって充足を得る機能。() (不全とは、機能不全のこと。機能不全に陥ると、飢えや怯えや苦痛などの不全感に恒常的に苛まれることになる。この不全感を麻痺させる麻薬回路

が、解脱充足回路、サルや人類は、何であれ不全感が刺激されると、その不全感を和らげるために解脱回路に収束する。解脱の中心はスキンシップを原型とする親和充足と性充足。人類の解脱にはその他に、涙や笑いや快楽など(一般には娯楽)がある。()

(以下引用)
超自己中心的な少年たちをめざめさせる方法の一つにロール・レタリングがある。この方法を確立した西九州大学名誉教授春口徳雄さんの本「ロール・レタリングの理論と実際」(チーム医療)から、例を引く。

十八歳にして二度目の少年院送りになったM少年は、すぐ怒り暴力を振るうお父さんは大嫌いだと、父当ての手紙に書く。これは実際に出す手紙ではないから、思いどおりに書ける。そして今度は、自分が父になったつもりで、その手紙に返事を書く。

最初の頃は、「今まで育ててやったのに、ケチをつけられたら頭にきます」などと書いていたのが、

やがて「普通の生活をしたいのなら、出来ない事はないと思います」と励ます父になり、何か月か経つと、「お父さんも自分勝手だったが、話し合いたくてもMは逃げるので話し合えない」と、父の立場に理解を示すようになる。

何回もの架空の手紙交換を経て、M少年は、「私は、本当に自己中心的で卑怯な人間でした。(中略)親父のあやつり人形ではないと言っておきながら、父を一人の気持ち、心を持った人間なんだと認めていますんでした」と書くに至る。

今、ロール・レタリングはほとんどの少年院で採用され、2002年から毎年、全国ロール・レタリング学科も開催されるようになった。この手法を福岡県大野城市立大利中学校の教育に取り入れた岡本泰弘教諭は、実施した生徒としなかつた生徒の変化を比較調査したところ、「自尊心」「共感性」ともに、これを行った生徒たちの方が有意に向上し、逆に、ストレス反応」は減少したと述べている。

(ここまで引用)

「自尊心」「共感性」とは言い換えると、「自分に対する肯定視」「周りに対する肯定視、同化」と

いう事なのではないかと思いますが、とにかく上記の記事からは「ロール・レタリング」を行う事によって共認機能を強化することが可能であるということが言えそうです。

この少年Mの例では、まず父宛ての手紙には、架空であるがゆえに父に対する否定視がそれほど混じる事もなく自分の思いを素直にぶつけることができるし、父になつたつもりでその手紙に返信する場合は、最初は単に自分の感覚で書いていたものが徐々に父に同化して書く事ができるようになつて、結果としてそれが父に対する否定視を肯定視に変え、それに伴って自分に対する否定視も薄れていったのではないかと思えます。

共認機能を妨げるのは自我機能(自己否定、他者否定)であつて、この自我機能は、「どうせ自分は何んだ」とか「どうせあの人は に違いない」というような自分だけの思い込み、自分発の思考です。それをうまく共認回路にソフトさせる手法としてこのロール・レタリングはとても面白いと感じます。

日本語の乱れについての考察

(一面から続く)

「らぬき言葉」というものを聞いたことはありませんでしょうか。

昨今のメディアで日本語の乱れが取り上げられています。その乱れの代表格に位置するのが「らぬき言葉」です。「寝ることができない」を表現する言葉で、「寝られる」は正しい日本語です。「寝ることができない」を表現する言葉で、「見ることができない」を表現する言葉で、「見られる」は正しい日本語です。「見れる」が「らぬき言葉」です。「来ることができない」を表現する言葉で、「来れない」は正しい日本語です。「来られない」が「らぬき言葉」です。皆さんはどちらを頻繁に使用しますか。

「らぬき言葉」というものは、助動詞「られる」の「ら」が欠落したものであると説明できます。助動詞「られる」の代わりに助動詞「れる」を充てたものであるということも出来ます。助動詞「られる」と「れる」は4つの意味があります。それは、尊敬・受身・可能・自発です。4つの意味のどれを指しているかは文脈やそのときのシチュエーションから推

察することになります。

「ここでもう一度最初の例を見てみると、「寝られる」とあります。これは尊敬の意味でしょうか、それとも可能の意味でしょうか。これだけでは分かりません。「先生は寝られました。」とここまで書かれていれば、尊敬の意味であることが分かります。「らぬき言葉」の場合、「寝れる」という言葉だ

個人史伝 第6回

60年の歩み 第6回

前回自分に惚れることができるようになったと書きましたが、この自分に惚れることで、私の人生の大きな転機が生まれたのです。から不思議です。その転機とは、本格的にコンサルタントの道を歩もうと決心したこと。それは15年間勤めた飛驒信用組合を辞めること。その仲間に「俺はコンサルタントの道へ進むので退職する」と話す。仲間には「飛驒なんかで経営コンサルタントなんか絶対に成り立たないからやめろ」と全員が大反対でした。家族

けで可能の意味であることが分かります。つまり、「らぬき言葉」を使った方が相手に意味が通じやすいという効能があるように思えます。ここに「らぬき言葉」が世に広まり、間違いとは気づかず使われるようになった理由があるのではないのでしょうか。

古語と呼ばれる平安時代の言葉と現代の言葉はかなり変化しています。(例えば、「うつくし」という古語は現代の「かわいい」という意味になります。)これは意

も全員大反対でした。しかし、私の心は決まっていた。今、コンサルタントとしての道を歩み出さなければ、もう夢を叶えることができないと確信しました。なぜ、コンサルタントの道を歩もうと決心したのかですが、その最大の要因は飛驒信用組合において担当した取引先の再建でした。5期分の決算書とにらめっこし、約一週間かけて経営分析を行いました。取引先の明暗を分ける仕事ですから、本当に神経を使いました。この決算書分析が第一段階で第二段階は事務所などの現場調査を行い、その結果を踏まえ再建計画書として作成し、支店長に提出しました。作成した再建計画書は、一部修正を加えることもありまし

識的に変えてきたのではなく、時代の移り変わりと共に徐々に変化してきたものです。その変化は、最初は使い方の間違いだったかもしれないませんが、その方が使いやすいと認知されて、時代の中で選択されてきたはず。ゆえに、社内における仕組みについても、永久的なものではなく、時代に合わせ使いやすいように変えていくことは自然の姿であり、そうしないことの方がおかしいと考えるのはごく自然なことなのです。

が、100%承認され、再建は成功しました。三十数年前の日本経済が高度成長期に入り、そんな良き時代であったからこそ、再建計画は成功したのだと思います。その頃の私は再建・活性化に取り組むことがうれしくて正に火の中に飛び込むような状態でした。このように取引先の再建という仕事が中学二年の時に描いた経営コンサルタントとしての道に火を点けたのです。しかし、その道は山あり谷ありのイバラの道でした。「苦労は買ってでもしろ」と昔から言われますが、この苦労があつたからこそ、今日の自分があると感謝しております。次回は、その山あり谷ありの人生を話させていただきます。

企画
連載
に

クイズミリオネアへの道

みみのやん まっぴやん

前回までのあらすじ

試験官の口から驚くべき言葉が……。五月二日の日は開いていませんか？

試験官は説明を始めました。今回は特殊な事情がありまして、急なことなんです。五月二日に収録があります。一日に二本収録します。今この場でどちらの収録となるかは分かりませんが……。どうでしょう？五月二日の日は大丈夫でしょうか？

実はその日は仕事が入っていました。一瞬悩みましたがこんなチャンスは二度と来ないかもしれないと思い、「大丈夫です。」と答えました。その返事を聞くと試験官は「1000万円の使い道は牛舎の建て替えの方向でいきたいと思いません。その場合、両親のどちらかにスタジオに来ていただくことになりませんがそれも大丈夫でしょうか？どちらになるかはまだ分かりませんが、どうでしょう？」と続けました。これにも「大丈夫です。」と答えました。試験官は「では、この後、両親の方にも電

話をして、牛舎のことなどについて確認をしたいと思しますので電話を差し上げる旨をお伝え下さい。」とお願いされました。「分かりました。」と答えるとこれで見接は終わりました。

「信じられない」という気持ちと「うれしい」という気持ちでかなり気持ちは高ぶっていたと思います。これで本当に合格だったのかという疑問はありました。しかし、あの試験官の言い回しからすると合格じゃないのか、でも合格ですとは言っていないかもしれません。本当に合格なのか？合格ならばこの後はどういう段取りで進むのか？試験官に質問したいことはたくさんありましたし、もっと具体的なことも聞きたかったのですが、高揚した状態では何も聞くとは出来ませんでした。とにかく大きく前進したことだけは間違いないです。

試験会場前でタクシーを拾い、品川駅に着くまでも落ち着かない状態でした。駅に着くと、両親に電話をし、事の成り行きの説明をしました。親もびっくりしていま

した。そしてもう一つ大事な電話をしなければなりません。五月二日の会社への電話です。五月二日の仕事を断らなければいけません。社長に電話をし、お願いをしました。すると快く快諾してくれました。なんて心の広い会社でしょう。これで障害はなくなりました。さあ、1000万に向けて突き進むぞと大いに意気込みました。これからが大変だということは何も知らずいまま……。

何が大変なのか？
次号に続く！

編集後記

小学校を中心として、義務教育では作文の学習は昔から盛んに行われていきます。学校で行われる行事の感想文や読書感想文などは必ずと言っていいほど行われていきます。また、宿題や自由勉強などで、日記を書くように指導している学校の先生もたくさんいます。班日記やグループ日記などのように、お互いの日記を読み合い、順番に書くのもあります。

日記は作文力の向上のために、頻繁に使われているツールです。皆さんも小さい頃、日記を書かされた覚えませんか。日記の場合、

同じような文面が毎日並びがちです。題材の選び方、場面の切り取り方一つで楽しく、続けて日記を書くことができるのです。実は、題材の選び方、場面の切り取り方というのは、社会生活においても非常に重要なことです。物事を多角的に捉えたり、豊かな表現をしたりすることは、社会におけるコミュニケーション能力にはとても大きな役割を果たします。ものを書くという能力は、その題材の選び方で大きな違いが出てくるので

皆さんは今、文章を書いていいますか？社会人になってその機会が少なくなつた人もいるかもしれませんが。このところ、「ブログ」というインターネット上で行う日記のようなものが流行っています。書くということは視野を広げることにつながりますから、どのような形態であれ、書くという訓練をしていくことは良いことだと思います。

この新飛泉の原稿を書くこともいい勉強になっているはずですよ。そう解釈してがんばってこれからも発刊していきます。よろしくお願ひします。